2.3　草木染の広巾紬への利用に関する研究（第1報）

洋　服　の　試　作

杉尾　孝一，仁科　勝海

Studies o f Dyeing in wide closh Tumugi with Natural Vegetable (Part I)
－Trial of making coats useing of oshimatumugi－

Kouich SUGIO. Katumi NISHINA

県内産香料植物である芳樟，レモンユーカリの色素，原木ログウード，及び，本来の大島紬用泥染を用いた，広巾絹絣織物を試作し，婦人ソフトスーツ，婦人チュニックコート，紳士用ブレザーなどを製作し，色彩，風合，デザインについて，草木染広巾紬の洋装化への検討を行った。

その結果，植物染料の渋い色調と紬独特の柔らかい風合に富んだ製品となった。

また着用感としては，大変軽く，しなやかで，身体になじみやすく，カジュアルな分野への利用も可能であると考えられる。

1. はじめに

本年度は香料植物の芳樟，原木ログウッドなどで染色した絹糸と本来のシャリンバイ泥染を組合せた広巾紬を試作し，婦人服，紳士服に仕立てて色調，風合，着心地などについて検討したので，以下報告する。

2. 実験材料および方法

2.1　実験材料

2.1.1　織物原料

- 経糸…絹練撚糸38g付/2500m S 300T/M
- 緯糸…つむぎ糸280中相当
- 緯糸…絣糸　38g付/2500m　S 100 T/M

2.1.2　草木染料

- ○芳樟（香料植物）
- ○レモンユーカリ（香料植物）
- ○原木ログウッド（梓貿易）
- ○シャリンバイ（大島紬用）
- ○ビンロウジの実（田中直）
- ○カッチエキス（三木染料）
- ○カテキュー（三木染料）

2.1.3　媒染剤・薬剤

- ○硫酸銅（試薬一級）
- ○焼明ばん（試薬一級）
- ○木酢酸鉄液（三木染料）
- ○消石灰（試薬一級）
- ○泥　土（本場大島紬の里）
- ○クレインゲルTL－300（三木染料）
- ○ライトシリコンM－80(　〃　)

2.2　実験方法

2.2.1　色素の抽出および染色液の調整

・芳　樟

生葉2.5kgに4倍量の蒸留水を加え，1時間煮沸後，ロ過し，染色液8lを抽出し，試験液とした。

・レモンユーカリ

生葉1kgに4倍量の蒸留水を加え，1時間煮沸後，ロ過し，染色液2lを抽出し，試験液とした

2.2.2　染色方法Ⅰ

2.2.1にて調整した各液に経用練絹糸185gを浸漬し，次の方法で染色した。(茶)（芳樟，レモンユーカリ）

新液もみこみ → 石灰処理 → 残液もみこみ → 新液もみこみ → 乾　燥 → 媒　染

新液もみこみ → 石灰処理 → 残液もみこみ → 新液もみこみ → 乾　燥 → 媒　染

新液もみこみ → 乾　燥 → 水　洗 → 乾　燥

図1　染　色　工　程

・染色条件

㋑　染色時間　新液もみこみ　１０分
　　　　　　　残液もみこみ　　５分
　　　　　　　石灰処理　　　　５分
　　　　　　　媒染処理　　　１０分

㋺　浴　　比　　１：１０

㋩　石灰濃度　　１０g／l

㊁　媒染剤濃度　硫酸銅
　　　　　　　　木酢酸鉄液　５g／l

2.2.3　染色方法Ⅱ

原木ログウッド２００gに５０倍量の蒸留水を加え，３０分間煮沸後，ロ過し，残査に再度同じ方法で抽出し，あわせて２０lを抽出し，試験液とした。

上の試験液で経用絹練糸１８０gを染色した。

◦浴比１：３０

◦９５℃で１０分染色後，放冷して１時間後，取出し，半乾燥後次の媒染液に入る。

媒染は焼明ばん３g／l，浴比１：１０，温度３５℃で１５分間処理し，水洗，乾燥する。

この染色を２回繰返して染色糸とした。(赤紫)

以上の2.2.2及び2.2.3で染色した経用絹糸をクレインゲルＴＬ－３００，ライトシリコン，で糊付した。

2.2.4　染色方法Ⅲ

・芳樟，カッチ，シャリンバイの染谷に，つむぎ糸１１０gを浸漬して染色後，硫酸銅2g／lで発色させて，染色糸とした。(茶)

・カッチエキス，ビンロウジの実，カテキュの染浴に，つむぎ糸７７０gを浸漬して染色後，木酢酸鉄液8cc／lで発色させて，染色糸とした。（灰）

3. 織物の試作

経糸に泥，茶，赤紫，絣を配列し，緯から，つむぎ糸の茶，灰を打込み，チェック柄とした草木染広巾紬を４種類製作した。

3.1　製　織

・絣織機

・密度：経糸……２６本／cm
　　　　緯糸……１８本／cm

・重さ：１５０g/m²

・筬及び引込み：１６羽／cm　２本入

・組織：平織

4. 仕　立　て

3.1で製織した草木染広巾紬，４柄を用いて，婦人服，婦人コート，紳士用ブレザーを製作し，色調，風合着心地などについて検討を行った。又デザインについては，山形屋のデザイン室の協力を得た。

◦**作品１　草木染大島紬婦人ソフトスーツ**

軽くて，しなやかな大島紬の味わいを洋装の分野で生かしてみたいと云うねらいで試作した作品の一つ，婦人ソフトスーツ。染色は泥染を基調とし，すべて草木染で，大島紬の絣を部分的にあしらい，渋さの中に，モダンな感覚のある格子柄となっている。

又気軽に，日常的に着てもらい，紬の良さを広

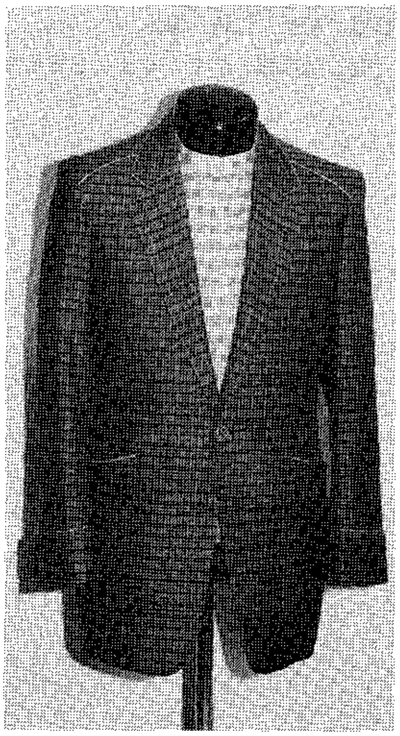
く知ってもらうために，ニット素材と組み合わせて，カジュアルなデザインに仕立てた。

着てみて，良さのわかるスーツではないかと思う。

◦**作品２　草木染大島紬婦人チューニックコート**

上と同じねらいで製作した。この作品は，皮素材と組み合わせたモダンなコートで，幅広い年代に着用でき，又保温性もあり，軽くて薄いので，肩もこらず，気楽に持ちはこびのできるコートである。

◦**作品３　草木染大島紬紳士用ブレザー**



上と同じねらいで製作した。気軽に，日常的に

着てもらい，紬の良さを広く知ってもらうために皮素材を，えりや，切り返し部分，袖口，ポケットロバックベット等にあしらい，アクセントにした，おしゃれなブレザーである。体になじみやすいため，活動的な男性のブレザーとして非常に適していると思われる。

5. おわりに

大島紬を用いた洋服を今回，3点試作したが，服地としての巾広い可能性があるものと思われる。ので，いっそう研究していきたい。

なお本研究にあたり，洋服のデザインなどについては㈱山形屋の婦人服コーナー，チーフデザイナー岡原一芳氏の御協力を得たことに対し，深く感謝いたします。

参考文献

1) 杉尾，満留，仁科，福山
　　鹿工試年報　２７（６６）１９８０
2) 杉尾，満留，仁科，瀬木
　　鹿工試年報　２７（６６）１９８１